

## 『自分の妻が JW と研究を始めてしまった時の対策』

JW 解約 番外編 真理 真 4月 2012年

前提条件として、あなたの奥さんがどういう性格かによって宗教から抜けられるか抜けられないかが決まってくる。中には運命的なものもあります。とはいえ、あなた自身が後悔しないように、結果はどうかあれ納得のいくまで行動を起こすべきです。とにかくスピードが命です。いろいろな例外とかケースがありますが、細かくつつこむとキリがないのでバッサリ書いちゃいます。基本姿勢は強く強行突破のつもりで。しかし議論の直後に「おまえのことを愛しているからいついてるんだ」と強く抱きしめてあげてください。攻撃するだけだと相手は夫との距離を感じてますます家族を信者中に求めてしまうからです。またなるべく自分の社交界に連れて行ってください。ヒマで寂しいから友達を信者に求めてしまうのです。また信者だけとつるんでると洗脳の度合いが早くなってしまうのでそれも避けさせたいです。

### 心得：

#### ①自分の妻は麻薬患者だと思って扱うべし。彼女に勉強を教えにくる人は売人である。

⇒妻に集会を許せば妻の機嫌がよくなるというのは、麻薬を許可すれば妻がハッピーだといっているようなもの。

⇒自分も研究すれば、自分も一緒に麻薬を吸えば妻もいっしょにやめてくれると期待するようなもの。

⇒時間をかけて愛をもって、はアウト。どんどん深みにはまり、子供も洗脳され再起不能になります。

⇒長老と直接議論はアウト。売人とケンカしますか？向こうはプロです。素人は絶対に勝てません。しかも仮に勝ったとしても向こうは形成不利になるとダンマリを決め込むかそこで議論を打ち切ってきます。

#### ②教理の議論にはハマらない。

⇒調べれば調べるほど枝葉の議論にまきこまれます。

⇒議論は根元からバッサリと切る。とにかく細かい教理の議論は不毛。

#### ③感情論はバッサリ切る。

⇒いい人たちだから。（信じているものが真理でなければ愛があっても意味ないでしょ）

⇒いいことを習っているから。（感謝しようとか家族を大切にしようは宗教じゃなくても常識でしょ）

⇒子供の教育にいいから。（人種差別、信仰によって人を差別する聖書のどこが教育にいいの？ 実際ヘブライ語聖書はユダヤ人でないアラブ人は虐殺しろ、レイプでもよいという記録（男は殺して女はかつさらっていった）だ。また聖書を信じていなければ一緒に食事をしてはいけないといっている。）

⇒信仰の自由は保障されるべき（彼らが禁令国でそう主張する）。よって自分の聖書研究も認めるべきといってくる。その場合、信条の自由を認めるのであれば排斥者を排除してあいさつもしないのは矛盾する。互いに認め合うべきである。

⇒家族が仲良くなるために聖書勉強している。（逆に家庭分裂の原因になるなら聖書をやめてほしい。聖書かボクのどちらかを選べ。夫をサタンという時点で一緒に住めないことは明白。）

⇒みんな（家族全員）が JW になればととてもよくなる。（ナチスだってみんながドイツ人であれば世の中がよくなるといっていた。同じ団体にみんなが入ればいいという答えはおかしい。違う団体・信条を認め合ってこそ平和である。）

⇒愛の神について学んでいる。（聖書になんと書いてあろうと、人種差別と虐殺を行う神は無条件の愛ではないので認めないと宣言。聖書の神が間違っていると強く宣言。聖書は信条が違うだけで人類の大半をサタンと断罪し滅ぼすといっているがそれはおかしい。）

⇒聖書と組織を離れたらどこにいけばいいの？（とりあえず次に何があるかではなく今のものを捨ててから考えるように。ツボに物が入っている状態では新しい物を入れることは無理。（出した時点で次のものではどうでもよくなります））

⇒命のためにやっている。（聖句によると人は自分の命の保証すらできないとある。組織も証人もなぜ他人の命まで保証できるのか？ JW やっていれば 100%命は保証されるのか？）

#### ④常に先手を打つ。

⇒状況は早いうちに対処。時間が経つほど相手の洗脳具合が進行し、出版物以外は背教者の資料とって見なくなるから。

⇒攻める時は不意打ちで。心の準備を相手にさせてはだめ。状況が整っていると相手は不利な議論から逃げる方法も考えているからだ。

⇒議論上相手の弱点・不備が明確になったらそれを離してはならない。連続パンチを加えて反論の余地を残さない。「これおかしいよね。これ解決するまでは真理として認めない。でもこれ絶対おかしいよね。どうして真理なのに矛盾するの。100%理解していないものに命をかけるの？ 盲目の信仰じゃない？」絶対に譲ってはならない。

⇒回答に時間を与えてはない。調べてから答えるといわせては NG。もっとややこしい資料をもってきて深みにはまるか、兄弟たちを連れてきて人数的に不利な状況に持っていかれる。また時間をあけると相手に警戒の壁をたてさせる猶予を与えるので、今回はあなたの主張を最初から聞かないようになる。

⇒おとなしくやさしく「背教者、サタン、反キリスト」という言葉を連発すること。向こうが勝つように「あなたはサタンの、背教的、反キリスト」という前にまずこっちから最初にこの言葉を使う。「それってサタンのだよね、背教的だよね、真理を愛していない証拠だよ、エホバを愛していないの？」向こうは自分たちが言われるのを予期していないので不意打ちを食らう。

⇒それってカルトだよね、を連発する。繰り返すことにより相手を逆洗脳する。

⇒相手の説明をダラダラ聞いてはならない。話すだけ向こうは証言をしたという自己満足を覚える。

⇒褒めてはならない、認めてはならない、受け入れてはならない。やっぱり真理だわと思う。しかし反対してもならない。サタンだわと思う。

⇒無視か無反応しかない。その話を持ち出すたびに感情を出さずに「カルトの話は興味ない」という。会話をさせないことが先決。すればするだけ相手の土俵にひきづられる。

⇒集会、記念式には決して顔を出してはいけない。相手は夫が進歩したとさらに期待する。

⇒JW とは食事をしてもいけない。いい人たちでしょ？という話にしかならない。(マナーは悪くないので実際問題批判するのは難しい)

#### ⑤確固たる手段に出る。毅然とした態度。

⇒背教者の本(真理の危機)を読ませる。本のページやJW 解約のPDF 資料をプリントして一枚ずつ各テーブルからトイレまで毎日置き続ける。向こうが見たくないといたら、自分も出版物を見たくないので家の中に一切置かないこと。これがお互いの譲歩の約束という。家に出版物があるかぎり粘り強くつづける。

⇒カルト信者とは生活できないし、子供にもよくないので離婚して親権は渡さないという。

⇒可能であれば奥さんをすぐに日本の実家に返す。実家にも遮断を手伝ってもらおう。

⇒集会にはどっちみち行くと思われるので、ガソリン代、寄付のお金は一切渡さないという。自分で稼いでやれという。(本当は車を取りあげるのが一番だが、買い物いけないのと JW がどっちみち尋ねてくるリスクがある)

⇒そのうち奉仕にいくようになると兄弟(男性)と車にのるようになる。その時点で浮気行為に近いと断罪。向こうがそんなことないといいはるのであれば、自分も常に他の女性という匂いをさせて「理由はなんであれ同じことだよ」と主張。

#### 結論：

最後の最後まで相手が譲らないのであれば選択は明白です。

**A 麻薬患者とは生活できないという結論で離婚。**(子供がいる場合は親権が問題になりますが)

**B 麻薬患者だから仕方ないと割り切って容認する。**(そのかわりお子さんも必ず信者になります)

この中間の選択肢がないところがカルトの怖いところ。ただ厳しいようですが**宗教のような麻薬に手をだす依存体質の奥様に問題があります。**これは心の病気です。大人になってから宗教にハマるパターンは潜在的に下記のような特徴を持っています。

#### 宗教に関心を示すそもそもの理由：

- 1) 自立していない。自分を認めてくれる人がほしい。
- 2) 愛が足りない。神様に愛されていると知って安心する。
- 3) 心が弱い=自尊心がない。上の二つと連動している。子供の時の親(特に父親)との関係に起因する可能性高し。親との和解・受容が先決。
- 4) 身体が弱い。常に病気がち。あるいは不自由を感じていて不幸に思っていた。
- 5) 常に不満を感じていた。自分は貧乏だった、仕事でも認められなかった、モテなかった。

6) 過度な理想主義。どこかに幸せがあると思いついでいる。戦争はおかしい、どこかに正しい神様がいます。

7) 潔癖主義。全てに白黒・善悪をつけないとおちつかない。道徳、教育、倫理に関して強い正義感。

これらの要因は直接論破の対象とはならないです。あくまでも本人が宗教に興味を示したそもそも論です。

1-3までは心の救済を求めています。だからこればかりは配偶者であれ人を変えることはできません。宗教でなくても他の問題を作り出すはずで、彼女自身が自立する意志を持たないと救出できないです。4に関しては江原さんのスピリチュアル本の方が有効です(笑)。ただし身体の弱い人がみんな宗教に入るわけではないので最終的には1-3に集約されます。5に関してはたんに教理が自分の不満に同調してくれただけ。ただの反社会分子。多分宗教に関係なくいつも不平タラタラのマイナス思考。最初から離婚するべし。一方、6-7は全く別の次元の話でどっちかという神経質か夢見がちタイプ。こっちの方がまだ理論的に論破できます。1-3に関しては何かにすがりたいという潜在的な欲求なので感情論になり解決は非常に困難です。

### 役に立つ本：

必要な本は全て JW 解約資料の中に列挙してありますが、アマゾンでも入手できて特に役にたったのは下記：

- 「良心の危機」(背教者の本とって読まないかもしれないが…JWには有効)
- 「禁じられた福音書」(さらに興味あれば「失われた福音書」も。聖書の由来が分かる)
- 「キリスト神話」(キリスト教そのものをひっくり返すために。キリストの由来も書いてあり有効)
- 「新しき啓示」(これは解約直後に読ませる本。信者である間は無理)
- 「神との対話」1-3巻(「新しき啓示」がおもしろいと思えば。個人的には一番お勧め)

-----  
下記に具体的な議論方法を列挙します。お役立てください。

### ■先制攻撃：

相手が警戒心を持つ前に突然資料を目の前に広げること。奇襲攻撃をかけたあとも同じ資料を相手の伝道カバンや出版物の中に毎日一枚ずつ入れる。もし相手がやめてくれといたら、お互い譲歩して同時に出版物(と背教資料(笑))を全て破棄しようとして強くいう。信者は家の人や人がイヤだといっても毎日奉仕で押しかけているので、「自分がやられてイヤなことは他の人にもしないでおう」という。

★創始者の**ラッセル兄弟の墓がフリーメーソンのピラミッドの墓なのはなぜか？** 相手を目の前にしてネットでグーグルのイメージ検索で「**Russell Freemason**」で検索。この墓は組織の本には出てこない。あるいは写真を相手につきつけること（JW 解約資料参照）。相手は絶対に「そんなのどうでもいいもん」とシラを切るのがそこで流してはいけない。「サタンが光の使いに化けているよね」を連呼。

★**なぜ出版物の中にサタンのカルトシンボルがある？** JW 解約資料をプリントして並べるより効果的なのは、相手の出版物のイラスト全てに太い赤マジックで○を事前につけておく。 ページは JW 解約資料に具体的に記載してある。

★**組織のスキャンダルの資料をつきつける。** ネットか JW 解約資料をプリント。軍事産業やタバコの株問題、幼児虐待問題など。絶対に後日長老に聞いて、そんな話は知らない、という回答を持って帰ってくるので、「あたりまえだよ、自分に都合の悪い情報を信者に教えるわけないでしょ。サタンのだよね」と回答。ここであっさり流してはいけない。食いついて離さないで蒸し返すこと。

## ■教理に対する直接的な議論の方法：

JW に関する根元の議論はここだけ。これ以外は教義が変わると水かけ論で振り回されるだけ。輸血やら家から家へ述べ伝えるとか油そそがれた者の根拠は意味をなさい。下記に絞って議論すること。

1) **1919年に JW が選ばれた根拠。** この時は他の教会と同様にタバコ、誕生日、クリスマスをやっていたので JW がキリストによって選ばれた根拠がない。

2) **真理を知らなくても不義の復活でどっちみち復活できる。** 本当の裁判は 1000 年王国の終わりである。だから布教活動しない方が助かる人が増える。

3) 世の終わりのしるしで戦争、疫病、地震が 1914 年以降増えているのであれば人口は減少しているはずである。しかし**人口は 1914 年後に爆発的に増えているので戦争や疫病や地震は減っているのではないか？**（実際減っています。JW 解約資料参照）

4) 新しい教理では小さな群れは集めおわっていないといっている。聖句によると小さな群れが集め終わらないと大群衆は集められないとされている。では 1935 年以降に集められている大群衆の存在はどうか？ もし古い解釈論で小さな群れはほぼ集めおわっていると主張してきたら、1935 年以降小さな群れは高齢化で亡くなっているはずだが、**いまだに記念式でパンをとっている人が減っていないのはなぜか？**と聞く。（ちょっと難しい議論ですね…）

5) 小さな群れは一世紀から常に存在した。であればなぜ**聖書の編集を奴隷級にさせないで売春婦であるバチカンにさせたのか？** もし相手が聖書が完成された 4 世紀まではバチカンも神によってもちいられていたと主張されたらこう答える。

⇒バチカンは 3 世紀に**三位一体**の教義を取り入れたはずなのでそれも受け入れるべき。

⇒バチカンは 4 世紀よりあとに**輪廻転生**の教義を「捨てて」いる。よって 4 世紀より前にしたがって輪廻を受け入れるべき。



6) 聖書の言葉はいかなる理由があっても言葉を差し換えてはならないとある。であれば**ギリシャ語でエホバをいう言葉 (あるいは YHWH) を見せてくれ**。実は新約聖書の原本にギリシャ語でエホバとはいうものは存在しない (YHWH はユダヤ人の宗教だったから)。組織の出版物でもテトラグラマトン YHWH の根拠は全てヘブライ語。つまり JW が無断で解釈に応じて聖書の言葉をさしかえているだけ。

### ■少し高度な抽象的な議論の方法：

教義に関して論破すると最後は女性の場合感情論に訴えてきます。その時は抽象的な議論です。教理ではなく概念に対してなので議論の技術が必要ですが参考までに。

- 1) ストレートにぶつけてください。**聖書と組織の主張が違ったらどっちをとるか？** 組織といたら聖書のために勉強していたのでは？ (ただしこの後かなり論破しないといけないので素人には勧めませんが…)
- 2) 聖書を調べれば組織の真理にたどりつくはず。では**なぜ集会外で数名で聖書を調べてはならないのか？** 聖句には二人であれ三人であれキリストの名に集まっているところにはキリストがいるといっている。しかも聖書を調べたら組織と違う解釈がでてくる余地はないはずである。
- 3) 妻は自分が勉強した結果真理だと思ったというはず。**聖句には自分の理解に頼ってはならないとある**が、自分の理解に頼って組織が真理だというのは危険ではないか。
- 4) サタンは光の身使いに化けているので、**組織もサタンが光の身使いにばけていても不思議ではない**。狡猾であるからだ。実際に世の終わりにはサタンは組織内から混乱させるのですでに毒が入っているかもしれない。
- 5) **統治体は靈感を受けて出版物を書いているという主張はおかしい**。しかし聖書は靈感を受ける霊能者の存在を禁じている。靈感を受けてはいけないのである。しかも組織の主張では人が靈感を受けていた時代は聖書が完成 (4 世紀です) までだとしている。**逆に靈感を受けていないのであれば「自分の理解に頼って」出版物を書くのは危険な行為**。
- 6) イエスは自分でさえ人を裁くために地上にきたわけではないといっている。であれば **JW 組織に人を裁く権限は与えられているのか？** 与えられていないのであれば組織以外の人は死ぬとかいう権限すらないはず。ましてや背教者を裁く権利すらない。
- 7) 真理に至るのは狭い門で少人数しか入れない。そうであれば**証人の数が世界中に増えるのはおかしくないか？** 増えれば増えるほど狭い門でなくなってしまう。

### ■聖書そのものをひっくりかえす議論：

ただしさっきまでの議論では JW の土俵に登ってしまう危険がある。本当は JW がどうのこうのというよりキリスト教そのものがどうかという議論をしないといけない。根元から断ち切るためには聖書そのもの

をひっくりかえさないといけない。そうしないと JW をやめさせたところで答え探しを続け色々な教会に行くようになる。だから可能であればいきなりここからスタートして根絶させること。

- 1) **聖書は不完全数の6を強調した66冊からなっている。** サタンの罠ではないか？
- 2) **聖書はサタンの代表であるバチカンによって完成されている。** サタンの罠ではないか？
- 3) **なぜギリシャ語聖書の2/3はイエスの直接の弟子でもユダヤ人でもないローマ人のパウロが書いているのか？** それはバチカンがユダヤ人の書いた福音書を外典として燃やして、ローマ人に都合のいいところだけを聖書に残したからである。
- 4) **イエスの黄金律と対立する聖句は反キリスト内容である。** キリストは神への愛と隣人愛の二つしか教えなかった。パウロとかは背教者を憎めといっているがイエス自身はそんなことはしていない。サタンによってイエスの教えが捻じ曲げられている。

以上。

解約のあとには浄化のフェーズがきますがこれらは「JW 解約」資料をご覧ください。ネットで「真理真 JW 解約」が出てきます。出版物にでてくるカルトシンボルや軍事兵器やタバコ産業の資料が載っています。またラッセル兄弟のフリーメーソンそのものは都市伝説でいわれるような陰謀的な秘密結社ではありません。しかし JW を解約する際にはフリーメーソン=サタンと結びつけた方が効果的なので手法としてはあります。組織も出版物（CD ライブラリの中に秘密結社という記事があるはずですが）は認めていません。